

1. 研究活動

論文『カーデザインと性能』	2013. 5	自動車技術 Vol.67 2013. 5 (自動車技術会発行)	自動車開発において、性能とデザインは特に密接な関係を持ち、様々な視点からとらえることができるが、よく考えられたデザインとはそれだけが突出するのではなく、性能表現と共に価値を生み出す。本稿では基本的性能の表現に加え、社会やユーザの要求にこたえるために必要となった様々なデザイン表現に着目し、その関係をひも解き、中でも特徴あるデザイン表現について考察した。
教員展	2013. 6	名古屋芸術大学 B ギャラリー	産学協同プロジェクト『新しい世代へのベビー用品のデザインおよび機能の開発』。株式会社小泉製作所、および助手との共同研究による『ブランド戦略研究』を展示。
『ホンダデザインセミナー 2013』	2013. 6. 8～9	ホンダ技術研究所主催 名古屋芸術大学 ID コース協賛 会場：名古屋芸術大学 西キャンパス X 棟 313, 314 教室	カーデザイナーの育成を目的に、株式会社ホンダ技術研究所が主催、名古屋芸術大学が協賛するデザインセミナー、東海地区の大学や専門学校でインダストリアルデザインを専攻する総勢 24 名（名古屋芸大生 8 名）の学生が参加した。
デザイン研究所受託研究 『新しい世代へのベビー用品のデザインおよび機能の開発』	2013. 9. 1 ～ 2014. 3. 31	名古屋芸術大学 デザイン学部デザイン研究所プロダクト & スペースブロック + ID コース 3 年生	提案はベビー用品の範囲で、社会動向、市場性を考慮し、ユニバーサルデザイン、サステイナブルデザインなどの考えを取り入れ、先行開発しておかなければならない商品を想定し提案する。開発は芸術大学という環境を生かし、将来のトレンドリーダーとなる、デザインに対して意識の高い学生層を中心としたメンバーで行い、これに研究員、教員の経験による判断を付加することで次期商品にふさわしい商品の姿を提案、デザイン開発、試作モデルまで制作した。
光触媒空気滅菌システムのデザイン	2013. 7. 20 ～ 2014. 3. 31	名古屋芸術大学 デザイン学部デザイン研究所プロダクト & スペースブロック（助手 + ID コース研究生）	盛和工業株式会社より受託した『光触媒浄化装置デザイン開発』。現在は主に医療現場や産業用に開発されている光触媒浄化装置を、学校や社会福祉施設、さらには一般家庭にまで広く普及させるための製品 2 機種のデザイン開発を行った。 開発対象製品はユニバーサルデザインおよび環境に配慮し、人々の生活に恩恵をもたらすことを前提とした。

2. 教育活動 (教育実践上の主な業績)

大学院授業担当 有 無

授業科目 製品企画論 A		<p>プロダクトデザインにおける様々な仕事の種類を細かく説明し、今後の職種選択の参考となるよう講義を進めた。</p> <p>講義形式は実際のメーカー内でのプレゼンテーションを模した形式で行い、リアリティーを持たせた。</p> <p>また、カラーデザインについては自動車メーカーから現場のデザイナーを特別講師として依頼し、特別講義を開催した。</p>
◆前期 <input type="checkbox"/> 後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
デザイナーとしての経験を生かし、デザインの現場で何がどのように行われているのか、可能な限り最新の情報を元にリアルな講義を工夫した。	デザインの現場にできるだけ近似した内容のパワーポイントを毎回作成しこれを活用した講義。	
授業科目 デザイン実技Ⅲ (PS) ID		<p>デザインイベントや講演会、展示会などできるだけ多くに学外授業として参加した。</p> <p>1. ウェルフェアの見学 (ユニバーサルデザイン関連)</p> <p>2. アクシスギャラリー『金の卵』展参加。</p> <p>後期授業ではカーデザインに集中したカリキュラムとし、より専門的な経験を積むことができるようカリキュラムを展開した。また、企業によるデザインの特別授業を積極的に取り入れ、卒業後の進路や、現場のデザインを理解できるよう配慮した。</p>
◆前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
デザイン表現力の向上を第1目標とし、スケッチ、レンダリング、モデリングを、実際に手を動かしながら指導を行った。また特別公開講座によるスケッチセミナーにも授業として参加した。	プロデザイナーのスケッチやイメージボードなどでできるだけ現場での仕事が体感できるような資料、情報を提供した。	
授業科目 立体造形		<p>手を動かし、立体に触れることにより三次元の楽しさやデザインの広がり、可能性を感じ取ることができるよう指導、特に感動を味わうことができるよう心がけた。</p> <p>また、他の学生の作品を全員で評価し、デザインやアイデアには限りなく可能性があることを感じさせた。</p> <p>本年度は特に2クラス合同で授業を進め、学生がより多くの作品に触れることができるよう展開を考えた。</p>
◆前期 <input type="checkbox"/> 後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
1年生はこれまで立体に触れたことの無い学生がほとんどで、回転体を製作することで、立体表現に親しみ、興味を持つことを目標とした。	行程を示すパワーポイントによる講義を実施。	
授業科目 インターンシップ演習		<p>実際の現場での体験を行うことにより、初歩的な職業的技能を身につけるとともに、社会人として働くことの意義を感じ取り、将来の職業選択や職業意識の育成に役立てることができた。また、各自の職業に対しての適正も確認することができるよう配慮した。この積み上げが成果をあげてきており、毎年インターンシップの希望者が増加してきている。</p>
<input type="checkbox"/> 前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
企業での職業体験を通し、実社会でのデザイナーとして働くために心掛けておかなければならないことを理解すると同時に、これに関する事前授業を行い、マナーやルールを指導した。	学生支援課と共同でインターンシップ企業に関する資料、マナーやルールについてのテキストを作成。	

授業科目 卒業研究		最終学年の最後の作品として、調査から課題の発見、その研究に基づき、製品を開発するまで、プロとして生きていくためのデザインプロセスを体験させた。JIDA 次世代委員会学生卒展訪問参加。
□前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
各学生の自主性を重視、より広い範囲にその課題を求め、実体験を積み重ねる中で課題を発見するように指導。	あえて、資料を用意せず、各自が自分自身の手で素材を発見することを求めた。	

### 3. 学会等および社会における主な活動

自動車技術会主催『キッズエンジニア』におけるデザイン部門委員会による『カーデザインに挑戦』	2013. 7. 26	目的：小学生を対象にカーデザインの仕事を体験させると同時にこれを指導し、自動車やカーデザインに対する興味を持ってもらう。 日時：2013年7月26日（金） 場所：名古屋市中小企業振興会館（吹上ホール） 内容：カーデザインプロセスの概要説明とスケッチの描き方、クレイモデル体験 午前、午後各1回ずつ 各120分 参加者：24名×2 = 48名 対応委員：トヨタ、三菱自動車、デンソー、ヤマハ発動機、スズキ、名古屋芸術大学
1日芸大生	2013. 7. 28	小学生のためにデザインの実体験とおして、その楽しさを理解してもらうイベント。 IDコースでは、真空成型の実体験とこれにより出来上がるトレイを使ったゼリー作りを行い、これに講師として参加した。
自動車技術会デザイン部門委員会主催『カーデザインに挑戦』 カーデザインコンテスト開催 ウェブサイト『カーデザインに挑戦』運営	2012. 11～	本イベントは、自動車技術会の育成事業として2012年度より開始し、中高生に向けて、カーデザインを通じたものづくりの魅力に気付いてもらい、プロを目指す道筋をガイドし、将来性のある人材の発掘・育成に取り組もうと始めたもの、これをデザイン部門委員会幹事として主催。 カーデザインコンテストはこのイベントとして開催、本年度で2回目。
日本インダストリアルデザイナー協会（JIDA）主催『卒業制作展訪問』	2013. 1～3	会場：各大学卒業制作展会場 主催：日本インダストリアルデザイナー協会 中部ブロック委員としてデザイン系大学、専門学校の卒業制作展を訪問、学生のプレゼンテーションを受け作品を評価。JIDA 賞を授与した。

<p>自動車技術会 デザイン部門委員会</p>	<p>2002 年デザイン研究会として発足、2004 年より部門委員会に昇格発足時はスズキ代表委員・幹事として、2005 年より中立の委員として現在まで活動。2012 年度より幹事。</p>	<p>◇活動の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ものづくりの源流にたざざるカーデザイナーが広く自信と存在感を示すための環境作り。</li> <li>・未来を担う若年層に向けてカーデザインの意味や重要性を伝えカーデザイナーへの動機付け。</li> <li>・日本の自動車産業におけるカーデザインの重要性をアピールし、カーデザイナーの社会的地位の向上。</li> <li>・カーデザイナーだからこそ実現可能なユーザーと技術者のパイプ役。</li> </ul> <p>◇活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シンポジウム、フォーラムの開催</li> <li>・デザイン講習会開催</li> <li>・技術者との交流会</li> <li>・基準統一に関する働きかけ</li> <li>・キッズエンジニア デザインイベント主催</li> <li>・中高生向け『カーデザインに挑戦』主催</li> </ul>
<p>日本インダストリアルデザイナー協会 (JIDA)</p>	<p>2006. 4～</p>	<p>中部ブロック委員として総会、セミナーなどの開催、次世代委員会委員として若手や学生の育成を目的としたイベントへの参加</p>